

(様式1・小学校用①)

令和2年度 学 校 評 価 報 告

草加市立谷塚小学校

(令和3年1月29日作成)

1 学校教育目標 徳育……やさしく (思いやりのある子) 体育……つよく (たくましく粘り強い子) 知育……かしこく (進んで学ぶ子)	
2 重点目標・努力目標 ○全職員の「熱意・誠意・創意」を結集させ明るく笑顔かがやく元気な学校づくりの推進 ・知・徳・体のバランスのとれた児童の育成 ・幼保小中一貫教育の推進 ・生徒指導、教育相談活動の充実といじめの根絶 ○子どもたち一人ひとりを大切にしたい教育の推進 ・学力向上、体力向上の取組の充実 ・自他の命を大切にしたい指導 ・学校運営協議会の推進 ・家庭地域との連携「8が付く日は谷塚の日」	3 前年度の成果と課題 成果 ○各校務分掌主任の適材配置のもとで、機能的・能率的に学校運営がなされ、学校教育目標が達成された。 ○児童の問題行動の早期発見、早期対応ができた。 課題 ●主体的・対話的で深い学びが展開される授業づくりの改善。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○教職員の学校経営方針に対する、参画意識を高めたことで、目指す学校づくりが組織一体となり、円滑に推進できた。 ○教職員の適材配置のもとで、機能的・能率的に運営され、学校経営目標が達成できた。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○個々の教職員が授業を見合うことで、授業改善が図られ、着実な成果を上げた。 ●研修の共通理解を図り、児童に付けさせたい力を明確にし、次年度に向けた取組みの活性化を図ること。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	B	○学校保健安全法に基づいた管理マニュアルの実践により、充実した健康管理が行われた。 ○地震や火災等の想定やJアラート対応の避難訓練、また複合施設での合同避難訓練を実施するなど、様々な想定で避難訓練が行われた。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○個人情報や会計処理の管理体制が校内管理規程に基づいて周知徹底が図られ、適切に行われた。 ○施設設備等の点検が適切に行われた。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	B	○学校運営協議会の貴重な意見を目指す教育活動に活かし実践できた。 ○児童の感染症予防協力等のメール配信で必要な情報の早期発信が徹底できた。 ●学校応援団・PTAとの継続した連携の充実
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○谷塚中学校とのあいさつ運動を引き続き継続して行うことができた。 ●感染症拡大防止をしながら、小中一貫教育の推進に係る取組の更なる充実を図る。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当 確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科領域等の教育計画のPDCAサイクルを確実に実行し、次年度へ繋げる。 ●年間行事計画の見直しの徹底し、効果的な教育活動を推進する。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○算数科の少人数指導による基礎学力の向上と学習規範の充実が図られた。 ●さらなるICTの研究により、学習に主体的な児童の育成。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○特別な教科道徳の研修や資料の提供及び校内公開授業を通して、道徳教育の充実が図られた。 ●道徳の授業のねらいを明確化させ、児童の道徳的実践力をさらに育成する授業の改善を図ること。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修を充実させ、外国語におけるコミュニケーション能力を育むことができた。 ●ALTとの打合せ時間を確保し、授業の充実を図る。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○8の付く日「谷塚の日あいさつ運動」やいじめ根絶運動の谷塚中学校区と地域青少年育成委員会との連携が図れた。 ●児童会活動年間集会計画の見直しと活動内容の工夫
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○指導計画に基づき、ゲストティーチャーの協力や地域の施設等の活用で、学習内容が充実した。 ●児童の思いや願いを重視した学習過程の整備。
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導委員会で生活目標や通年目標の取組みの評価を行い児童への意欲化を図った。 ○問題行動に対する早期発見早期解決の組織体制を整え保護者の信頼を得ながら解決できた。 ○スクールソーシャルワーカーに、いじめ防止対策委員会に参加頂き、対策を図ることができた。
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○乗り入れ授業や中学校進学へ向けた体験授業を生かしたキャリア教育の充実が図られた。 ●キャリア教育の計画的な実施と評価の改善を図ること。
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育コーディネーターを中心に校内委員会で児童一人一人のニーズを把握し、諸機関と連携しながら指導、支援に努めてきた。 ●通級学級との連携を深めること。
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○図書室の効果的なレイアウトにより、児童にとって、使いやすい図書室とした。 ○学校司書との連絡体制や学校・地域図書館ボランティアによる児童との交流や環境整備が充実した。
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器の整備とICT支援員の効果的な活用における授業改善と児童の学習意欲の向上。 ●プログラミング学習の研修及び、提案授業の実施。
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○人権作文及び人権標語の取組みに関わる人権感覚の育成の充実。 ●人権教育について外部人材を活用した効果的な研修が必要。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	①一貫教育推進と学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着 ・言語活動の充実 ・自ら学び豊かに表現する力を育てる授業 ・主体的に運動する授業の実践 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○「やつカード」「家庭学習週間の取組みカード」を3校で協力し実施した。 ○算数・国語タイム、読み聞かせの時間の確保。標語や俳句づくり等の取組み等の継続実践が基礎学力に確実に繋がった。
	②豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動の推進 ・いじめゼロプロジェクト ・道徳教育の充実 ・体験活動の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修の柱に道徳教育を立て、外部指導者のもと、全教職員が指導力向上を図った。 ○代表委員会が主体となる運動のもと、いじめ根絶の意識が全校児童へ図られている。
	③学校運営協議会の活用と地域力を生かした教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールの推進 ・地域との連携を深める取組の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○地域・保護者の協力を得て、感染症対策をしながら、半日運動会を予定通り実施できた。 ●本校の学校課題解決に向け、策を講じていく。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- ・特色ある学校づくりの具現化を図り、全教職員でチーム谷塚小の団結力を生かし、積極的に教育活動に取り組んだことにより、生徒指導の充実と学力の向上に繋がった。
- ・谷塚小学校の課題である、明るく元気なあいさつができる児童の育成について、学校全体で努力する様子が見られ、活気が感じられるようになったとの評価を得ているところであるが、引き続き、心豊かな教育の推進を図っていく。
- ・昨年度より継続して、谷塚中学校15歳の目指す児童像の達成のための授業改善に努めるとともに、一人ひとりのよさを認め、自己肯定感を育成する教育の充実に向けて、教師の指導力の向上や指導体制の工夫改善をより一層図る必要がある。
- ・学校運営協議会、学校応援団等の地域力をあらゆる教育活動に活かした組織体制づくりを行い、教育活動において、PDCAサイクルで行い、改善すべき点を明らかにする。そして、子どもたち一人ひとりを大切に笑顔かがやく元気な学校づくりを目指し、全教職員が一丸となった学校教育の実現を目指すことが不可欠である。
- ・谷塚小学校児童の体力向上の取組を今後も行事等を活用しながら、図っていく必要がある。

6 次年度の改善策

- ・児童の心身の健康に配慮した学校生活を推進し、児童の課題を明らかにした教育活動の推進を図る
- ・各教科における谷塚スタンダードの取組の周知徹底と授業規律の更なる充実を図ること。
- ・次年度へ向けて校内研修の共通理解を図り、日々の授業改善の工夫と活性化を図り、確実な学力向上の成果を目指す。
- ・教育相談体制の事例研修等の定期的な実施及び関係機関との連携、教員のカウンセリング力の向上を図り、校内就学支援委員会の充実を図る。
- ・谷塚中学校区幼保小中一貫教育を一層推進させ、中学校の共通理解のもと児童生徒の育成を図る。
- ・学校経営方針の実現に向けて、教職員の具体的目標の指標を自己評価シートに記載し、教科指導・生徒指導・校務分掌等にて目標達成及び貢献できるように組織の一員としての更なる達成を目指し学校教育力の向上を図る。
- ・学校運営協議会を充実させるために、地域への啓発と学校応援団の組織体制を活用した地域学校協同本部の設立に繋げる。
- ・ICT環境を整え、職員の研修を通して、全児童がタブレットを活用した、主体的学習をできるようにする。
- ・教材費他、集金作業を見直し、事故防止、職員負担軽減に繋げる。